

広域計画等推進委員会委員からいただいたご意見について（第4期広域計画期間中）

参考2

暫定コード	委員会	発言委員	見出し	項目	意見概要
100101	R3第1回	上村委員	01. 広域計画・ビジョン	作成方針	「KANSAI STYLE 2025 ビジョン」（仮称）については、大阪・関西万博の情報を共有しながら、作り込み、年々それをフォローアップし検証しながら固めていくべきである。
100102	R3第1回	衣笠委員	01. 広域計画・ビジョン	各府県の位置づけ	第5期広域計画を作る時は、各都道府県が関西広域連合をどういう位置づけにしているのかを委員にも共有していただくと、意見のまとめ方も変わってくる。
100103	R2第2回追加 R3第1回	木村副座長	01. 広域計画・ビジョン	現場の意見収集	広域計画等推進委員会の構成委員数は限られる。全体を鳥瞰するという意味では、大学の先生など有識者が必要であるが、同時に、個別の領域、個別の現場で先端の活動を担っている方の意見も必要である。他の広域的な連携と比べてみますと、現場で責任を持っておられる方の声をあまりすくい上げていない気がする。
100104	R2第2回追加	木村副座長	01. 広域計画・ビジョン	主催会議で出た意見の検証等	広域計画等推進委員会の意見やパブリックコメントなどについて関西広域連合は誠実に対応されているが、シンポジウムや展示会、会議などで出た貴重な意見についての対応が気になる。関西広域連合では担当行政分野で、民間会社と組み、シンポジウムなど様々な取り組みを行っており、そこでは、たとえばライブ・サイエンスのクラスターのあり方についても世界標準となるために関西に欠けているものなどが指摘されている。そういった意見についての検証が十分に行われ、計画にいかされることを強く望む。
100105	R2第2回	遠藤委員	01. 広域計画・ビジョン	ポストコロナにおける取組	ポストコロナというのは、コロナで体験した、学んだこと、これを生かしたやり方が新しくできるということなので、今までのコロナが解消されたらいいという視点ではなくて、新しい視点で少し違う取組を考えていただきたい。
100106	R2第2回	遠藤委員	01. 広域計画・ビジョン	関西広域連合の施策	これまでの10年間は施策の推進に力が入っていたと思うが、定着に意識を置いて施策を考えていく時期にきたと思う。ビジュアル的に分かりやすいものを作ることで、住民も参加しやすくなる。
100107	R3第1回	河田委員	01. 広域計画・ビジョン	文化的な視点での記載	コロナのパンデミックから世界各国の感染率とGDPの関係を調べると日本より収入の多い国の感染率は日本よりも高い。つまり、経済的に豊かになっても、感染率は下がらない。日本の感染率が低い要因は、水道水を塩素殺菌している、部屋に入るときに玄関で靴を脱ぐといった生活文化が影響している。「KANSAI STYLE 2025 ビジョン」（仮称）には、DXとかIoTといった文明的なことだけではなく、意識的に文化的なところをどうするかということと一緒に入れていただきたい。
100108	R3第1回	木村副座長	01. 広域計画・ビジョン	情報基盤・情報教育の整備	新たな広域計画では、脱炭素社会とか、事前防災とか、関西広域連合で合意しやすいものをまず鮮明にしていきたい。DXの推進もあるが、情報基盤・情報教育を広域連合で整備することを目標にしていきたい。

広域計画等推進委員会委員からいただいたご意見について（第4期広域計画期間中）

参考2

暫定コード	委員会	発言委員	見出し	項目	意見概要
100109	R2第2回	遠藤委員	01. 広域計画・ビジョン	情報インフラ等ネットワークの場づくり	コロナを体験したことで私たちが獲得したこともたくさんある。観光等の分野はこれまで移動を前提に考えられていたが、今後は移動しないコミュニケーションも選択肢のひとつ。インフラ整備の中に空間整備みたいなことがちょっと欠けていると感じている。地域の拠点を作り、それを情報インフラで結ぶなど少し具体的なネットワークの場づくりみたいなことにも注目していただきたい。またこうした場をどうするかという仕組みのところもぜひ検討してほしい。 大学ではオンライン授業になり会えなくなったことで、困る人がいる一方で大変喜んでいる人もいる。色々なニーズにあったサービスが提供できるような場づくりを考えていただきたい。
100110	R2第1回	大浦委員	01. 広域計画・ビジョン	情報インフラ等ネットワークの場づくり	教育体験旅行などを受け入れていた農村地域について、子どもたちを受け入れられず寂しい思いをしていたが、ネットを介した事前学習などできることはあると気づかされた。 例えば学校とか集会所とかの単位で、オンラインでつながれるような場所、インフラが整備されるといい。そのことがワーケーションなど、都会からの方を受け入れることもできるような気がする。
100111	R3第1回	衣笠委員	01. 広域計画・ビジョン	広域連携	関西広域連合で取り扱う内容は、府県すべてを網羅しないとイケないのかと疑問がある。例えば淀川の環境整備といった話などは府県によって関係性が高い、低いに分かれる内容である。 関西広域連合として、広域連合域内全体と言うより特定の地域に関するテーマについては、この府県とこの府県で連携しましょうとかを具体的に示してくれればやるべきことも整理できる。
100112	R3第1回	衣笠委員	01. 広域計画・ビジョン	広域連携	獣害対策などについて府県をまたいでの連携をもう少し計画的に、現場も含めて連携できる体制を整える提言を関西広域連合として提案してもらいたい。
100113	R3第1回	木村副座長	01. 広域計画・ビジョン	獣害対策等における広域対応	獣害で府県を越えて協力といったことについては、ぜひ関西広域連合で対応していただいて、住民の方に関西広域連合が本当に役立っているということを示し、実績を積み上げていただきたい。
100114	R2第2回	木村副座長	01. 広域計画・ビジョン	広域的な職業訓練、マッチングの実施	生活保護は、資産もない、収入もないという、そこから立ち直りにくい状況になってから給付されるものなので、生活保護手前の支援が特に重要。支援策としては補助金とか給付金をどうするかという問題もあるが、関西広域連合のよさを活かすということで、職業訓練とかマッチングというのを関西広域連合として行っていただきたい。
100115	R2第1回後追加	木村副座長	01. 広域計画・ビジョン	失業対策	失業に対しては、職と求人のマッチングが大切である。たとえば、スウェーデンでは、コロナで失業したキャビンアテンダントに、介護職につくための講習会を組織的に開いていた。関西広域連合でも、こうしたマッチングを広域でできないか。

広域計画等推進委員会委員からいただいたご意見について（第4期広域計画期間中）

参考2

暫定コード	委員会	発言委員	見出し	項目	意見概要
100116	R2第2回	松永委員	01. 広域計画・ビジョン	ポストコロナにおける格差問題	ポストコロナを考える上で格差の問題も重要。オンラインであっても、スーツを買えずカメラをオフにしている学生がいるなど、ひずみを感じる場面が多い。格差を超えていけるキーワードのようなものを考えていく必要がある。
100117	R2第2回	松永委員	01. 広域計画・ビジョン	デジタル化に関する議論	教育の場では対面とオンラインのハイブリッド型で構築していくことが求められているが、まだ手探り状態。オンライン化、デジタル化が進む部分と、非デジタル、対面で進めないといけない部分をどうハイブリッドで構築していくかを真剣に議論し、それを思想として次の計画に載せていく必要がある。
100118	R2第2回 R2第2回追加	木村副座長	01. 広域計画・ビジョン	行政におけるDXの推進	基本的にデータに基づく行政が変わっていくことと、行政へのアクセスの不平等をなくすという2つが大切。基本路線をしっかりさせる手段がデジタルトランスフォーメーション（DX）。データを蓄積し、よりよい公共サービスを提供する。デジタル化を行政に生かすことなど、関西広域連合で時代に必要なインフラの標準化、普及に取り組んでほしい。
100119	R2第2回追加	木村副座長	01. 広域計画・ビジョン	DXを利用した地域産業の活性化、地域おこし等	地域内外の事業者と協力して、デジタル・トランスフォーメーション（DX）を利用し、自治体が先導して地域産業の活性化をリードする。内外の先進事例を集めることから始めてもよい。地域おこしについて、郡部ほどデジタル化を活用できる可能性が高いので、住民に対して最新技術を教える講座などを実施してはどうか。
100120	R2第2回追加	木村副座長	01. 広域計画・ビジョン	デジタル人材の育成	公務員だけではなく、地域の中小企業なども対象としたデジタル・トランスフォーメーション（DX）の実施に必要な人材育成に関西広域連合で行ってはどうか。
100121	R2第2回追加	木村副座長	01. 広域計画・ビジョン	技術革新、ドローンの活用	再生可能エネルギー分野での技術革新・雇用創出が必要である。例えば、バイオマスでは安価で継続的に一定量を供給できる燃料は国内ではなかなか得難く多くを輸入に頼る。そういったものを技術革新でのりこえられないか。地域でドローン操縦技術の取得を推進する。農林業や災害時の荷物運搬、医療になかなかアクセスしにくい高齢者などへの薬の運搬などにも役立つ。
100122	R2第2回追加	木村副座長	01. 広域計画・ビジョン	情報のプラットフォーム	関西広域連合のホームページを観光、産品、仕事、行政や企業の見学などの情報が得られたりアクセスできるようにするなど、関西の情報のプラットフォームとなるようにしてはどうか。
100123	R2第2回 R3第1回	木村副座長	01. 広域計画・ビジョン	新型コロナウイルス感染症対応の検証等	新型コロナウイルス感染症について、どういう状況であったのか、何が問題として残されたのか、危機対応、観光、飲食業を含む経済、暮らし、医療・福祉・介護等について、どういう影響があったのかなど記録をしっかりととり、まとめていただきたい。 また、残された課題についてぜひ取り組んでいただきたい。コロナ後、生活に取り入れるべきものを選択していただきたい。

広域計画等推進委員会委員からいただいたご意見について（第4期広域計画期間中）

参考2

暫定コード	委員会	発言委員	見出し	項目	意見概要
100124	R3第1回	大浦委員	01. 広域計画・ビジョン	分散型社会	次の広域計画では今まで行ってきたことをしっかり見つめ直して確実に足りないところは補っていくと同時に関西として多くの人を受け入れる、地域に受け入れるような動きを加速できれば、程よい密度で暮らしやすい関西というようなことを実現できる、そういう動きにつながれるのではないか。こういうことをかなり前面に出すべきではないか。
100201	R3第1回	大浦委員	02. 地域のあり方	資源の活用等の視点	第5期広域計画では、関西全体で都市地域も周辺部も、それぞれ農山村の価値、地域資源とかを存分に活用し、豊かな自然環境とか文化とかを活用する視点、活用してそこからイノベーションを起こすとか、そこから地域経済の循環を考えると、そういう視点がもう少し取り入れられてもいいのではないか。地域ぐるみで雇用と、暮らしを作っていくというふうな視点がもう少し出ればいい。
100202	R2第2回	加渡委員	02. 地域のあり方	地域の自治力等確保、人材育成、スタイル構築等	今後、人口減少や労働力不足などになる中、地域の自治力、自立力、自律力をどうやって確保するのか、それを担っていただく人をどうやって育てていくのかというのを考えると、関西の地域地域が個性と独自性を持って、各地域のスタイルを構築していくというところを目指すべきではないか。
100203	R2第1回	加藤委員	02. 地域のあり方	まちづくりへの規制緩和、地域ルール等適用	これまでもしばしば言われてきたことだが、新しい人の流れを受け入れる都市の魅力とは何なのか、やはり画一的にさまざまな制度を全国に適用することはやめて、規制緩和、場合によっては規制誘導も含めた地域独自のルール、地域ルール、地方ルールをまちづくりの中に適用していくようなことも必要なのではないか。
100204	R2第1回後追加 R3第1回	木村副座長	02. 地域のあり方	2箇所居住の推進	コロナは大都市の脆弱性をあきらかにした。関西のニュータウンでも、団地再生の時期に入っている。それも含めて、関西全体の地域づくりとして、コロナ後を見据えて、その地域でテレワークや子育て、介護などがある程度完結し、環境を楽しめ、災害にも強い多極分散型の地域をつくる。I o Tの環境を整える。滞在型の2箇所居住もどんどん進めていただきたい。
100205	R2第2回	新川座長	02. 地域のあり方	ポストコロナにおけるライフスタイルの検討	ポストコロナに向けて、関西での新しい暮らし方、ライフスタイルについて、関西が有する多様な産業などをベースに新たな組み立て方を考えていくのも重要ではないか。コロナの影響をどのようにして、より良く活かしていくかが大切である。
100206	R2第1回	松永委員	02. 地域のあり方	都市集中のリスク	これまでキーワードとされてきた「人の還流」という意味合いがコロナによりかなり違ってきている。関西の中での「人の還流」をどういうふうに新たな生活様式と絡めて戦略的に打ち立てていくか、これは曖昧にはできない、何か連携みたいなきれいな言葉では片づけられない。やっぱり都市集中のリスクをどう地方で受けとめていくかを連合の構成府県市でよく議論していく必要がある。

広域計画等推進委員会委員からいただいたご意見について（第4期広域計画期間中）

参考2

暫定コード	委員会	発言委員	見出し	項目	意見概要
100207	R2第2回	松永委員	02. 地域のあり方	関西の魅力発信	ポストコロナにおける関西としての思想を打ち出していくことが求められている時代。東京一極集中が抑えられてきている中で、ゆとりのあるライフスタイルや、都市と農村が近接しているという点などが、関西の思想として打ち出せるのではないか。
100208	R3第1回	松永委員	02. 地域のあり方	分散政策に係るNPOとの議論	分散政策については、行政だけの連携というよりNPOを交え、より突っ込んで何か議論していく必要があるのではないか。
100209	R3第1回	松永委員	02. 地域のあり方	分散型社会の推進	これまでの広域計画は国の地方創生の政策、国の分散政策と機を同一にして動いてきていたと思うが、分散政策というのをどう取っていくかっていうのが、多少分かりづらい。 第5期広域計画では分散型社会を進めていくことをもっと明確にしていく必要があるのではないか。
100210	R2第1回	山口委員	02. 地域のあり方	緊急時の事例共有	コロナ禍において、災害時と同様に緊急対応としてやれるべきことはやろうという現場の方々と一緒に動いてきた。 その中で、緊急時にこれまで地域の中でつくってきた既存の仕組み、地域の皆さんと使ってきた仕組みについて、これを利用すればこうできるんじゃないかみたいな提案を持ち寄る会議を頻繁に行っていた。 その結果、今まで縁のなかった業界同士が一緒に手を組んで、持っていた寄附サイトを使って、困っているお店のチケットが買えるような仕組みをつくろうと動いたり、NPOと社協が協力して困窮世帯への食材提供を始めようということがまとまるなど、これまでの既存のネットワーク・仕組みをみんなが知恵を出し合って組み合わせることで、何とか乗り越えていこうというような動きが始まったのはすごく大きかった。 こうした知恵については、もっとたくさんあったはずだが、地域の皆さんと十分に共有する、議論する場を持っていなかったと思う。他地域の優良事例も共有化される仕組みがあると良い。
100211	R3第1回	山口委員	02. 地域のあり方	分散型社会のあり方	関西広域連合としてどのような社会のあり方を提案していくのかという時に分散型の社会のあり方、イメージというのをより具体的に示していく必要があるのかもしれない。 また、それは「KANSAI STYLE 2025 ビジョン」（仮称）で示す内容なのかもしれない。
100212	R3第1回	山口委員	02. 地域のあり方	新たな関西の可能性が感じられる社会像等	第5期広域計画で分散型社会をつくっていくという文脈の中に民間資金の活用も含めて、また金融の業界では社会的投資やインフラ投資、ESG投資などあらゆる分野で地域の公益性を上げる。また地域の本当の社会課題を解決するということに資金を振り向けようという動き、新たな関西の可能性が感じられる社会像が示され、若い世代も一緒につくっていくというような運動が各地で始められるような声かけを関西広域連合でやっていただけたら、すごく楽しみだと思う。
100213	R3第1回追加	山口委員	02. 地域のあり方	分散型社会、広域連携	分散型社会で、自立した地域が増えることは大切だが、それらが有機的につながり、共生する関係性の構築がこれからの広域連携に求められるのではないか。

広域計画等推進委員会委員からいただいたご意見について（第4期広域計画期間中）

参考2

暫定コード	委員会	発言委員	見出し	項目	意見概要
100214	R2第1回	山崎委員	02. 地域のあり方	都市のあり方	関西広域連合は関西の都市をこれからどうしていくのか。世界の都市ランキング何位ということを目指していったら、普通の人たちと呼ばれるかなりのボリューム層が、不安に思い、頑張り続けなければ住み続けられないというような都市を再生産していくべきなのか。都市のあり方を考えなければならぬ。
100215	R3第1回	新川座長	02. 地域のあり方	地域活動、関西のあり方	分散型社会と自立、理念としては関西全体でも同時に成り立ちそうな感じがする。それぞれの地域が自立的な経済圏を作っていく。小さな経済が回っていく。そうした活動、あり方について検討しないといけないのかもしれない。
100216	R3第1回	松永委員	02. 地域のあり方	人の環流	内閣府の調査で、コロナ禍直後にワークライフバランスがどう変わったかっていう質問に対してライフ重視にシフトしたという人が半数を超えている。ライフ重視と回答した人ほど移住志向が高い一方で、具体的な行動変容までは起こっていない。そこをどう促していくのかが一つ焦点になってくる。「KANSAI STYLE 2025 ビジョン」（仮称）で関西全体でのそういう像というものを、人の還流みたいなものを具体的に示していく必要があるのではないか。
100217	R3第1回	坂上委員	02. 地域のあり方	広報戦略	東京一極集中是正については、大阪・関西万博をいかに、活性化につなげていくかというストーリーを作るべき、国と連携して関西というだけでなく、日本の代表地域としてアピールをするような動きをするべきではないか。若い方々などに注目をして広報的な戦略を、しっかりとグローバルに、国内的にも両方やっていく必要がある。
100301	R2第1回	加藤委員	03. 地方分権	地方分権と地域創生の議論	地方分権、今から15年から20年ほど前、日本でもさんざん言われたが、地域創生の議論の中で、この地方分権の議論はどこかに行ってしまった。今回のコロナでもしばしば縦割りの非効率が指摘されたり、あるいはブロックで補助を地方に展開すべきところ、いまだにひものついた議論がなされている。このあたりはやはり地方分権の議論を地域創生と重ね合わせながら、これから広域圏としてより進めていくことが必要なのではないか。
100302	R2第2回 R2第2回追加	木村副座長	03. 地方分権	移転した国機関の活用と移転の効果	統計局や文化庁の一部が関西広域連合域内に移転しているが、広域連合としてそれをどう活用していくのかということを考えていったらいいのではないか。また、移転の効果を明確にしてはどうか。
100401	R2第2回	上村委員	04. 万博	広域連合の関わり方	大阪・関西万博については万博本部や経済団体などでさまざまな組織や会議等ができており、その中で広域連合としてどのようなかわり方をしていくのかを考えていくべき。

広域計画等推進委員会委員からいただいたご意見について（第4期広域計画期間中）

参考2

暫定コード	委員会	発言委員	見出し	項目	意見概要
100501	R2第1回	上村委員	05. 新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症対応を踏まえた権限移譲、連携	<p>コロナにより生き方、働き方、学び方、物の移動、人の移動、制限を受けた。未来はコロナ前に戻すというより、むしろもう少し感染に強い社会のあり方というものをどう志向していくかだと思う。</p> <p>また、今回ほど都道府県の裁量権、権限というふうなものを考えさせられたことはない。残念ながら関西広域連合の制限・制約であるとか、リーダーシップにかなり限界がある。</p> <p>むしろそういった限界が、どうすればもう少し都道府県をまたいだ形で、あるいは関西広域連合にもう少し権限移譲が集まるのか、推し進められることができるのかというふうなことを、今回をきっかけにぜひ考えていてはどうか。</p> <p>何ができなかつたか、今の体制の中では都道府県が1つのベース、国と都道府県の中での1つの指示命令系統、裁量になっている。</p> <p>関西広域連合が連携という、連携という言葉が非常に抽象的で、連携とは、具体的にどういうことが連携なのかというようなことを考えるべきである。</p>
100502	R2第1回	上村委員	05. 新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症対応を踏まえた権限移譲のあり方	<p>今回の対応で考えさせられたのは、大都市とその他の市町村とでは、コロナの中での状態とか状況とかが違うわけなので、全国一律、また都道府県別一律というわけにもいかないのではないかということ。</p> <p>むしろこの関西においては大都会である大阪、京都、神戸、この京阪神の都市の抱えるこういった緊急事態宣言での問題、それから府県境をまたぐ交通の問題と、それから大都市ではない市町村の問題とは違う。</p> <p>だから、都道府県でも1つの限界があった、むしろ関西圏としてどうすればよかつたのか、府県をまたぐ都市圏域で1つのスタンダードをつくるようなことを、これを機に関西広域連合は考えてはどうか。</p> <p>これを機会に関西広域連合の強化といいますか、権限移譲のあり方をしっかり考えなければならない</p>
100503	R2第1回	山口委員	05. 新型コロナウイルス感染症	地方分権の議論	<p>地域としては、地域の皆さんとともにどうやってこの困難を乗り越えていくかという一言に尽きるんですけども、機動力のある財源を持つのもとても大きなものだと思っている。</p> <p>地方分権を進めていただくことも大変重要であるけれども、やはりもっと細かな、一人、二人の困ったに合わせられるような資金の提供のあり方、資金調達のあり方も重要である。</p> <p>そのような可能性も探りつつ、休眠預金に関して関西で活用していく方策をとれなかつたのか、給付金10万円が配られたが、本当に届けたいと思う人に届いているのかどうかということを考えると、そういうような施策は本来もっと現場に近いところで行われるべきではないかと思う。</p> <p>お金のこともセットで施策のあり方や分権のことを議論いただけるとありがたい。</p>

広域計画等推進委員会委員からいただいたご意見について（第4期広域計画期間中）

参考2

暫定コード	委員会	発言委員	見出し	項目	意見概要
100504	R3第1回	上村委員	05. 新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症対応の検証等	新型コロナウイルス感染症の対応について、関西広域連合の中でスムーズに円滑に行われているような所の情報共有しながら、水平展開できるとか、あるいは関西広域連合が政府に代わって司令塔になってでもスムーズに円滑にできるとかそういうことができたのか、できなかったのかも含め、これは少し検証してみる必要があるではないか。国がやるべきこと、都道府県でしか今はできないこと、この枠が阻むもの、そういうものを一度整理するべき。
100505	R3第1回	木村副座長	05. 新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症対応の検証等	新型コロナウイルス感染症対策で、国から地方自治体に指示や指導がいろいろあったと思うが、その中で、地方の実態にあわず地方が権限を持って自ら決めた方がよいもの、関西広域連合で取り組んだ方がよいものを、地方分権との関係から整理していただきたい。
100506	R2第1回	上村委員	05. 新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症感染症対策	コロナ対応は、全国や都道府県一律にはいかない。京阪神という都市圏及び府県間をまたいだ問題と、それ以外の小規模な市町村の問題は異なる。府県間、都市と地方をまたぐ感染追跡のシステムやその他の問題について、広域連合としてのスタンダードを作っていくのはどうか。
100507	R2第1回	上村委員	05. 新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症感染症対策	医療体制のあり方、特にPCR検査体制は当初立ち上がりが遅かったと思う。広域連合全体で体制を整備し、また追跡システムについても共同化していくことが必要ではないか。感染に強い社会の実現を目指すべき。
100508	R2第1回	加藤委員	05. 新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症対策	井戸連合長が「ウイルスは行政界に沿っては動かない」と言っていたように、（コロナ対応については、）単一の自治体ではなく関西圏域全体ぐらゐの広さで議論することが重要である。
100509	R2第1回	藤井委員	05. 新型コロナウイルス感染症	感染症対策の体制	政府の専門家会議にいるのは感染症の専門家。リスクマネジメントの専門家をその上に置く体制が必要。政府や厚労省ができなくとも、広域連合は独立した行政機関なのだから、理性でもってちゃんとしたコロナ対策ができるのではないかな。
100601	R2第2回	河田委員	06. 防災	災害時の指揮命令系統	東日本大震災の復旧・復興で問題だったのは東北の自治体間で連携が全くなかったこと。関西広域連合ができたのは阪神・淡路大震災の経験から連携しなきゃいけないということがベースになっている。災害が発生したときに連携して動けるような体制づくりというのをやっておかないといけない。災害が起きた時にどうするかという指揮命令系統は用意しておく必要がある。
100602	R2第2回	河田委員	06. 防災	災害への備え	南海トラフ地震が起きると停電が長期化する可能性がある。そうなるとテレワークもできなくなる。近年の災害では福祉や医療や教育といった社会基盤にも被害が出ている。東日本大震災の検証をして分かったのは、事前に準備をしていると被害が非常に少なくなるということ。万博も控えているので、地震だけでなく高潮の問題も含め、広域連合として認識して備えることが重要である。
100603	R2第1回	上村委員	06. 防災	新型コロナウイルス感染症対応に伴うBCP策定	コロナ禍における災害対応について、広域連合がリーダーシップをとって、BCPを策定する動きをリードしてほしい。

広域計画等推進委員会委員からいただいたご意見について（第4期広域計画期間中）

参考2

暫定コード	委員会	発言委員	見出し	項目	意見概要
100604	R2第1回	河田委員	06. 防災	BCP策定	業種ごとにネットワークの構造が違うので、各業種で事業を継続できるBCPをつくらないといけない。 また、それぞれの業種ごとに一体どういうふうに業界を展開していけば被害が少なくなるかという、もっときめ細かな対策を出さなくてはならない。
100605	R3第1回	河田委員	06. 防災	事前防災	関西広域連合の防災対応は、これまで事後対応だったが、事前対策に持っていけないといけない。 そのためには、災害対策基本法を抜本的に改正して事前対策にお金が使えらるようにするよう政府に言わなくてはならない。 また、近畿地方整備局などの国の機関と仲良くし、TEC-FORCEなどを一緒にやる。 国と一緒にやってみると、一緒にやるところ、これは関西広域連合でやったほうがいいところというのが出てくる。第5期広域計画は、そういう今までないような新たな視点とかそういうものを持っていくっていうチャンスにしていきたい。これは関西広域連合、これは国がやった方がいいという風に、あり方を検討、課題に対応するというにすればもっとうまくいく。
100606	R3第1回	大浦委員	06. 防災	防災体制の見直し	感染症のパンデミックという事態は、人口とか経済活動の過度の一極集中の状態のリスクなどあらゆる方面でのリスクを浮かび上がらせた。 防災や減災体制について、感染症リスクの観点から、何かあった時の体制をもう一度、見直さなければならない。
100701	R2第2回	上村委員	07. 医療	感染症対策の広域連携	新型コロナウイルス感染症について、広域連合としてもっと医療分野で重症、中症、軽症と分けて対策を打った長野県松本市のように医療の役割分担や医療人員体制を真剣に取り組み対応し、その上で広域的連携を進めてほしい。
100801	R3第1回	梅原委員	08. 観光	観光戦略の見直し	コロナ禍で地域住民が自分の地域の良さに気づいたことで、関西の人が関西を見直して旅行する。そのような観光が増えると思われる。 国内観光を充実させるとともに、長期的な視野に立って考えるべき。
100802	R3第1回	大浦委員	08. 観光	観光戦略の見直し	ポストコロナの観光については、これまでの大規模集客は見直さざるを得ない。 リスク管理として、少しずつ持続可能な観光、観光客の数自体もある意味コントロールしていかなきゃいけない。 その中で、マイクロツーリズムとか国内観光とかという分散型観光が非常に必要になってくる、あるいは回遊させるとかそういう事がますます課題になる。
100803	R2第1回	坂上委員 梅原委員	08. 観光	観光戦略の見直し	関西広域連合はこれまでインバウンドに重点を置いた対応をしてきた。この姿勢を守り続けたほうがいいのか少し検討が必要。国内観光の振興を少し考えていけばいいのではないか。

広域計画等推進委員会委員からいただいたご意見について（第4期広域計画期間中）

参考2

暫定コード	委員会	発言委員	見出し	項目	意見概要
100804	R2第1回	大浦委員	08. 観光	観光のガイドラインについて	観光のガイドラインづくりを支援するような取組が広域でできればいいのではないかと。受け入れ地だけではなく、都市部からやってくる人たちを含めて、回遊することを含めたガイドラインづくりなども考えてみればいいのではないかと。また、受け入れ側も不安なので、ガイドラインづくりや研修などで、住民を含めて共通の意識というか、安心感も一緒につくってほしい。
100805	R2第2回	衣笠委員	08. 観光	近隣県との協働等	香川県や岡山県など、関西広域連合の近隣の県との協働や、西国三十三所など宗教的なものについても観光の分野での取組を進めてほしい。
100806	R3第1回	衣笠委員	08. 観光	マイクロツーリズム	関西のマイクロツーリズムについて、コロナ禍の今は市町ベース、もう少し終息したら府県ベース、最後は関西版と広がる宿泊観光を民間との連携も含め、提案していただきたい。
100807	R2第1回	木村副座長	08. 観光	国内観光振興	コロナ後は、安全性を確保しながら、国内観光をぜひ進めるべき。関西広域連合の中でお互いにアピールして、共通のスタンプでもつくって、旅行し合うということもいいのではないかと。
100808	R3第1回	梅原委員	08. 観光	観光戦略の見直し	アフターコロナの観光業については、インバウンドは東アジアばかり見るのではなく、範囲を欧米オセアニア等にも広げるべき、かつ、量ばかり追うのではなく、質の向上を図るべき。
101101	R2第1回	加藤委員	11. 産業	地域の発展、企業立地のあり方	コロナにより、これまで企業が作ってきたグローバルサプライチェーンの姿は変わっていくはず。企業と情報共有しながら、広域連合が地域の発展や企業立地のあり方を考えていくことが重要である。
101102	R2第1回後追加	木村副座長	11. 産業	生産環境の整備	コロナ禍において、各国の依存度が非常に高い国が生産・流通を停止した場合、世界経済に甚大な影響を与えた。コロナ後は、商品生産が一国に偏ることのリスクを回避するため、国内回帰を含む分散型になると考えられるので、国内回帰の場合の環境を整える必要があるのではないかと。
101201	R2第2回	衣笠委員	12. 農林水産業	農業のICT	コロナの影響で業務用米がほとんど売れず、高齢化が進む中でこの状況が続くと農業者がどんどん辞めていく。それを回避できるのがICTなので関西として農業におけるICT推進の協力体制を作ることが重要である。
101202	R3第1回	衣笠委員	12. 農林水産業	農業のICT	農業のICTについては進んできている。構成団体の切磋琢磨につなげるためにも関西広域連合として、研究データや取り組み状況を関西として取りまとめ情報発信していただきたい。
101203	R2第1回	木村副座長	12. 農林水産業	生産者と消費者がつながるシステム	生産者と消費者がもっとつながるようなシステムをつくれば、関西広域連合の中の農家の方と、それから都市に住む方との連携のようなものができるのではないかと。

広域計画等推進委員会委員からいただいたご意見について（第4期広域計画期間中）

参考2

暫定コード	委員会	発言委員	見出し	項目	意見概要
101301	R3第1回	加渡委員	13. 環境	GXの視点	「KANSAI STYLE 2025 ビジョン」（仮称）の中に国や関西広域連合各地域が合意形成をしてカーボンニュートラルに向けて一体となって取り組んでいくこと、関西広域連合のライフスタイルのイノベーションによるGXを提案すること、規制緩和も含めてGXに向けたルールのイノベーションを進めていくこと、GXのための人材育成というのを入れているかどうか。
101302	R3第1回	加渡委員	13. 環境	GXの視点	約400の自治体が2050年のゼロカーボンシティの実現を宣言している。また、政府も2030年度の温室効果ガスの削減目標を宣言をした。こういった中で、関西広域連合全体の地域固有の課題解決を含めたカーボンニュートラル、脱炭素社会を実現するというのを念頭に置いたGXの視点、グリーントランスフォーメーションの視点を、次の広域計画にはかなり重点的に盛り込む必要があるのではないかと。
101303	R3第1回	加渡委員	13. 環境	GXの視点	地方都市は、規模は小さいなりに地域の中で生産と消費、距離が近いといった特性を活かしながら何とか地域版、あるいは、関西広域連合版のGXを全面に出していくことも今後必要ではないかと。
101304	R2第2回	加渡委員	13. 環境	サステナブル・トランスフォーメーションの反映	DXに加え、これからはサステナブル・トランスフォーメーション（SX）も必要になってくる。企業の稼ぐ力と社会問題の解決を、二元論ではなく同期化していくことにこれからの関西のあり方の基本があると思う。仕事が減ったレストランが自分たちが作る料理の食材を育ててみようということなどで農業に乗り出したり、企業が働き方改革として在籍出向に取り組むなど、コロナ禍で生まれた連携や変革、得たものを積極的に生かしていかなければならない。 そういうことを基本にして、SXを考えると広域計画で関西は実質カーボンゼロでいくとか、関西はプラスチック廃棄物ゼロにするぐらいのことを、思い切り高いサステナブルな目標を掲げていくということもあるのではないかと。
101501	R3第1回	新川座長	15. 広報	広域計画の内容	「KANSAI STYLE 2025 ビジョン」（仮称）の中で、新しい人の流れや新たな地域資源への着目など、新しい動きというのをより具体的なイメージを湧かせるようなスタイルを提示できるよう、みんなで考えていければいい。
101502	R2第1回	木村副座長	15. 広報	関西の魅力発信	緊急事態宣言下の自粛といった、そういう危機のときにも生活の質をきちんと維持することができる関西をもっとアピールしてもらいたい。
101503	R3第1回	坂上委員	15. 広報	万博のPR	大阪・関西万博の時に、文化を含めた関西あるいは日本の魅力を代表して世界にスピーチしていけば良いのではないかと。 文化庁が本格的に移転という時期に入ったので、ちょうどタイミングもいい。 2025年の大阪・関西万博、文化庁、文化首都というストーリーができるのではないかと。

広域計画等推進委員会委員からいただいたご意見について（第4期広域計画期間中）

参考2

暫定コード	委員会	発言委員	見出し	項目	意見概要
300101	R3第1回	大浦委員	01. 広域計画・ビジョン	広域計画	「KANSAI STYLE 2025 ビジョン」（仮称）については巻き込み型で、こういったビジョンをみんなで考えていくきっかけになる、そういう資料になるといい。各地の色々な取組、ベストプラクティスを交え、頭の中にビジョンが描けるような形、そのきっかけとなるようなそういうものにできればいい。
300102	R3第1回	渥美委員	01. 広域計画・ビジョン	若者へのPR	「KANSAI STYLE 2025 ビジョン」（仮称）を特に若い世代にアピールすることがこれから重要になる。そのためには、巻き込み型で学生たちをそのPRの主体に回すことがすごく重要なポイントだと思う。巻き込み型のイベントをぜひ企画していただきたい。
300103	R2第2回	大浦委員	01. 広域計画・ビジョン	関西の魅力発信	関西は本当に程よく海も山も都会もあって、例えば農業だとか産業がいかに都市に近いところで行われてたりというふうなことで、暮らしやすさを感じる雰囲気にもつながっていると思う。こういった第1次産業や中小のものづくりの部分というのを評価をしていくということも必要。人や暮らしの香りがするような形でPRができるといい。
300104	R3第1回	衣笠委員	01. 広域計画・ビジョン	関西創生戦略の評価	関西創生戦略の評価について、外部委員の方に評価していただくのではなくて、助言をいただくなどであれば、目標を達成してなかったらどうやって努力しようという意識になる。第5期計画ではちょっと辛めの評価もした方がいいのではないかな。
300105	R2第2回追加	木村副座長	01. 広域計画・ビジョン	会議の進め方	広域計画等推進委員会について、テーマをいくつかしぼって、同時双方向型の議論で深める機会があってもよいのではないかな。
300106	R2第2回	山崎委員	01. 広域計画・ビジョン	会議の進め方、デジタル人材育成	オンライン会議には同期型と非同期型がある。例えば資料説明やそれに対する各委員の意見を動画収録してYouTubeで共有する方法もある。もちろんその場合は委員同士の対話はできないが、会議の進め方によっては同期型である必要がない場合もある。どういうタイプを同期型で進め、どういうタイプを非同期型で進めればいいのか、そのときのオンラインツール、動画ツール、あるいはチャットツールを組み合わせうまく運用できるようにする、そういったことを発想し、さまざまな種類の会議にチャレンジできる職員を育てていく、もしくは外部人材を登用していくという事を期待したい。
300107	R2第1回	坂上委員	01. 広域計画・ビジョン	関西広域連合の予算の考え方	コロナ対応の予算について、連合として何か増加すべき点とか、そういったことも今後、ぜひ予算面で検討されるべきではないかな。積極的な部分については、より強化をするという考え方が必要ではないかな。
300501	R2第2回追加	木村副座長	05. 新型コロナウイルス感染症	感染症対策	コロナや大規模災害の経験に基づき、ケガや病気に対する応急手当ができ、感染症に対して家庭内感染を防ぐ知識（感染者に対して紙コップを使うなど）が豊富な住民を増やす取組を実施してほしい。
301501	R2第2回	大浦委員	15. 広報	広域計画の浸透	関西広域連合の施策、コンセプトを多くの人が実感するような形でまとめ直して、それを問いかけるというような取組は重要なこと。現実には施策等を住民の皆さんに浸透させるのは、なかなか実は難しいことではあるが、こういう努力はしていくべき。

広域計画等推進委員会委員からいただいたご意見について（第4期広域計画期間中）

参考2

暫定コード	委員会	発言委員	見出し	項目	意見概要
301502	R2第2回	坂上委員	15. 広報	広域計画の広報戦略	これまでの広域計画は行政施策資料としての役割は果たしているが、もう少し分かりやすいイメージ戦略も必要。コロナにより社会の価値観に変化が生じつつある中、関西が本来有するスタイルを確認して発見し、創造していきたい。世界の中でも関西は優れた生活の質を持っていると思うが、現状ではそうしたイメージが十分に伝わっていない。行政計画の施策資料というよりは、第三者としての我々委員の意見を取りまとめて発信してほしい。仮のタイトルとして「KANSAI STYLE 2025ビジョン」としたが、大阪・関西万博が開催される2025年を見据え、関西のスタイルをセーフティー、インフラ、ビジネス、ツーリズム、そしてライフの5つのスタイルに整理し、発信してみてはどうか。
301503	R2第2回	渥美委員	15. 広報	広域計画の若年世代への情報発信	関西では首都圏と並んで若年人口の流入が多く、10代は転入超過だが、20代は転出超過。広報戦略としては若年世代に関西の魅力をどう伝えるか。自然環境と勤務先とが身近にある、職住近接や職育近接といった点が東京と差別化できる関西の魅力。ワーク・ライフ・バランスやダイバーシティなどはビジネスとライフの双方に関わるテーマであり、ここを整理して若年世代に訴える広報戦略が必要である。
301504	R3第1回	坂上委員	15. 広報	広域計画の広報戦略	「KANSAI STYLE 2025 ビジョン」（仮称）については、参加型企画提案コンペのようなものが、いろんなところで多数行われるというイメージを持った方がいい。
301505	R2第1回	渥美委員	15. 広報	関西の魅力発信	関西広域連合でウェブサイトをつくって、関西の魅力発信キャンペーン、ワークだけではないライフを充実させるバランスのとれた地域であるというキャンペーンをなされてはどうか。
301506	R2第2回	衣笠委員	15. 広報	広域連合の取組発信	コロナ対応で、広域連合がいろいろな取組をしてきたことについて、メディアにあまり取り上げられていない。広域連合としての取組をメディアにしっかり伝えてもっと報道してもらえるようにしてほしい。
301507	R3第1回	坂上委員	15. 広報	広報戦略	情報発信の在り方として、文章でたくさんの報告書のようなものが出て終わりではなくて、しっかりと分かりやすく、見える化できるようなデザイン手法なり、あるいは、そこにアートの展開を加えるといったことが必要になってくるのではないか。
301508	R2第1回	衣笠委員	15. 広報	コロナ対応における各分野での発信	コロナにおける分野別の対応として、関西広域連合がリーダーシップをとり、医療なら徳島県知事、農業なら和歌山県知事と、各分野での発信があれば良かったのではないか。多分、知事としての意見と、関西広域連合の委員としての意見は違ってくる。自分の府県市のことだけではなく、関西広域連合の立場でメディアに出て発言してもらいたい。